

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区子ども読書活動推進会議（第2回）
事務局（担当課）		文化商工部図書館課
開催日時		令和3年8月6日（金） 11時00分～12時00分
開催場所		教育委員会室（区役所本庁舎8階）
議 題		<p>議題1 子ども読書活動推進会議部会の報告について</p> <p>2. 第四次計画の目指すもの「読書の質の向上」について</p> <p>3. 第四次計画事業について</p> <p>4. 第四次計画素案について</p> <p>5. 今後のスケジュールについて</p> <p>6. その他</p>
公開の 可否	会 議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 行政機関における政策意思決定過程の途上に位置づけられる会議 であるため
	会 議 録	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 行政機関における政策意思決定過程の途上に位置づけられる会議 であるため

出席者	委 員	副会長 児玉 辰哉 教育委員会事務局教育部長 会 員 活田 啓文 区民部地域区民ひろば課長 " 長澤 義彦 文化商工部学習・スポーツ課長 " 小澤 さおり 子ども家庭部子ども若者課長 " 佐藤 明子 教育委員会事務局教育部指導課長 " 小林 幾子 池袋幼稚園長 " 佐藤 洋士 池袋本町小学校長 " 山本 聖志 明豊中学校長 " 倉本 彩子 文化商工部図書館課長
	事 務 局	図書館課 計画調整グループ係長 坂本 恵 計画調整グループ主任 新里 江美

(開会)

副会長：第1回会議では、東京都の第四次計画に沿って豊島区の第四次計画を策定していくことで決定し、「読書の質の向上」に対する「豊島区の目指す子どもの姿」及び「計画事業の体系」を部会で検討することをお願いした。

また、これまでの検討状況を7月20日の教育委員会で報告した。I会員より教育委員会への報告内容についてご説明いただきたい。

I会員：7月20日の教育委員会において、第三次計画の取り組みの進捗状況と、第四次計画の骨子案の概要について報告を行った。教育委員から、次のような意見をいただいた。

- ・例年行っている進捗状況調査は、「今年度どうだったか」が個別で縦割りになっている。計画を1年延長したということは、令和3年度の取組みが第三次計画のまとめということになる。その際には、ぜひ、取組み全体でどうなのかという視点を持って評価してほしい。

- ・不読率に目を付けたことは賛成する。読む子は読むが、読まない子は読まない。区の実態調査は一部の意見ともいえる。数が少ないものを母数としても根拠は薄い。豊島区も母数のある学力調査等を実施しているのだから、それを根拠に目標を設定すれば、より普及するのではないか。

- ・取り組み目標と目標値の設定は大事なことだと思うが、第三次計画の目標が各課に下ろされて、各課で取り組むという構図になっている。目標をどう達成するかが聞きたいところである。全体として「不読率を少なくするには」、「貸し出し冊数を増やすには」、「障害を持っている子どもには」どう対応するのか、という手立ての基本方針をぜひ教えていただきたい。それがないと今と同じになる。目標があって、それが各課に下りて、各課の事業課題となり、それがまた報告されるという循環になってしまうので、それはぜひお願いしたい。

- ・全部の学校の子どもがタブレットを活用すれば、もっといいアンケートになるのではないか。どうしても保護者が忙しいと、読む子は読むが、読まない子は読まない。読むきっかけは先生が仕掛けてくれることがある。保護者として読書の時間を作れと言われるかもしれないが、とても難しい。読書もやめて勉強させなければいけないこともある。タブレットの活用によって、その点が示せるとよい。

副会長：第2回会議では、部会の検討報告を受け、目指す子どもの姿、計画の事業体系を決定したい。

関係課長・園長・校長先生方には、各方面からのご意見をいただきたい。より現状に沿った計画内容となるよう、ご尽力を賜りたい。

議題1 子ども読書活動推進会議部会の報告について

(事務局より、資料2-1を説明)

副会長：部会の決定事項については議題2、3で詳細を説明するが、報告についてはよろしいか。

(了承)

議題2 第四次計画の目指すもの「読書の質の向上」について

(事務局より、資料2-2を説明)

副会長：質問、意見はあるか。

H 会員：資料2-2、1「豊島区がめざす子どもの姿」(2)の②「多文化共生への慣習」の「慣習」の使い方に違和感がある。ここでいう「慣習」とは、「習う、慣れる」という意味でよいか。

事務局：ご指摘のとおり、「習う、慣れる」という意味で使用している。

H 会員：現在、小学校・中学校は新しい指導要領の下で学習が進んでいるが、それと上手くリンクさせた形で「読書の質の向上」が設定されているため、学校現場で取り組みやすく、ありがたい。参考資料としている「育成すべき資質・能力の三つの柱」は、現在小学校・中学校が実施しているものであり、この三つの柱を理解した上で計画を改定しているため、質の高い計画であると感じている。

B 会員：豊島区生涯学習推進ビジョンや、豊島区基本計画でも、学びを個人のものから地域コミュニティの活性化につなげていくことが挙げられている。子ども読書活動推進計画の中にもその視点を入れることで、子どもが読書で育ち、生涯学習につながるという流れができるとよいと考える。

C 会員：資料2-2、1「豊島区が目指す子どもの姿」(2)の④で子どもの参画に触れているのがよい。ただし、ここで「参画」という言葉を使っているが、豊島区子ども・若者総合計画や豊島区子どもの権利に関する条例では、「参加」という言葉を使用している。「参加」のほうが意味の幅が広く、他の計画との整合性が取れるのではないか。

事務局：C 会員からいただいた意見は、事務局へ持ち帰り、他の計画等と調整しながら検討する。次回の会議で素案としてお示ししたいと考える。

G 会員：資料2-2、2「学び(読書)の循環(わ)」で、豊島区生涯学習推進ビジョンの「学びと活動の循環」が示されているが、これはまさしく学校教育の内容とリンクしている。ここを起点に学びと読書を位置づけていることに好感がもてる。その次の「図書館は学びの場」という項目の中で、豊島区生涯学習推進ビジョンでは、区立図書館を学びの場として位置付けているとの記載があるが、豊島区子ども読書活動推進計画においては、学校図書館も学びの場として位置

付けるべきではないか。

事務局：豊島区子ども読書活動推進計画の中では、学校図書館の役割について、学びの場であると明記させていただく。学校、図書館、地域、家庭が連携して子どもの読書活動を推進していきたいと考えている。

副会長：この計画は、豊島区生涯学習推進ビジョンだけでなく、豊島区教育ビジョンとも深くリンクしているので、工夫していく必要がある。

以上をふまえ、本件についてご賛同をいただけるか。

(異議なし)

議題3 第四次計画事業について

(事務局より、資料2-3を説明)

副会長：質問、意見はあるか。

E 会員：資料2-3、3「第四次計画の進捗管理・報告について」(2)「数値目標「読書が好き」の進捗管理・報告」について確認したい。全国学力・学習状況調査では、質問項目「読書が好きですか」を経年で調査している。また、豊島区の学力調査では、読書時間について調査している。この2つの調査を総合して記載しているということによいか。

事務局：ご質問いただいた通り、総合して記載している。

副会長：区の学力調査はどの学年で実施しているのか。

E 会員：区の学力調査は小学校3年生から中学校3年生で実施している。全国学力・学習状況調査は小学校6年生と中学校3年生で実施している。

副会長：他に意見はあるか。

A 会員：区民ひろばは、SDGsの拠点施設と位置付けることを考えている。7月には、区民ひろば豊成でSDGs関連書籍を展示した。その際、上池袋図書館から、図書の貸出の協力を得た。これからは、これまで以上に図書館と連携を深め、図書館司書の知見や蔵書等を活用し、SDGsの知識を深める環境等も整備していきたい。

副会長：事務局から何かあれば。

事務局：A 会員からいただいたご意見について、SDGsをキーワードとして連携していくことは、「第四次計画事業の体系について」の中で説明した「あらゆる主体との連携」に関わる部分である。図書館としても、本、そしてSDGsを基軸として、区民ひろばと連携し、事業を展開していきたいと考える。

副会長：他に意見はあるか。

I 会員：図書館と連携を、というご意見をいただき、大変ありがたく感じている。現在も各図書館でSDGsの取組みを行っているが、個々の取組みになりがちなので、図書館としても、ぜひ各施設と連携させていただきたい。

G 会員：資料 2-3、1「第四次計画事業のあり方について」の(3)において、読書に関心がある層と、関心が無い層に対する取組みが必要だと記載されているが、実態としては、読書に関心はあるが、時間がない・環境がない、という子どももいる。関心のあり、なし、という軸だけではなく、環境があるか、ないか、という、もう一つの軸があると考え。そのことも念頭に置く必要があるのではないか。

事務局：『豊島区読書活動に関する実態調査』で、本を読まない理由を調査しており、本を読む時間がないという回答も得ている他、生活態度の調査も行っているので、そちらの数値も参考にし、計画の素案に生かしていきたいと考えている。

F 委員：資料 2-3、1「第四次計画事業のありかたについて」(2)の④に、乳幼児期からの読書習慣との記載があるが、読書習慣の形成には、家庭の読書環境を整備していくことが重要だと考えている。特に、幼児期に絵本への興味を育てていくためには、家庭との連携が欠かせない。幼稚園では家庭への絵本の貸出を行う他、図書館から、おはなし会に来てもらったり、図書館を訪れたり、幼稚園と家庭との連携、幼稚園と図書館との連携をさらに充実していきたいと考えている。計画においては、この辺りを重視していただけるとよい。また、幼児期には、地域社会への関心も大切である。図書館等の施設を知ること、そこでのマナーを知ること、とても大事だと考えている。

事務局：『豊島区読書活動に関する実態調査』でも、不読率の改善のためには、乳幼児期からの取組みが必要である、そして家庭での読書環境も必要であると分析している。ぜひ幼稚園とも連携し、小学校就学前の子どものいる家庭に読書の大切さを伝えていきたいと考えている。

副会長：各会員のご意見を取り入れ、計画事業の進捗管理・報告を進めていくということによろしいか。

(異議なし)

議題 4 第四次計画素案について

(事務局より、資料 2-4、豊島区子ども読書活動推進計画(第四次)の素案の概要(案)を説明)

副会長：質問、意見はあるか。

副会長：私から意見を言わせてもらいたい。現在、新型コロナウイルスの関係で、図書館へ行きたくても行けないご家庭もある。このように、第四次計画は環境が大きく変化する中での計画改定となる。家庭の読書支援や、時間がないために本を読めない子どもの支援という課題に対する解決策の一つは、ICTの活用である。小学校・中学校では一人一台タブレットが配付されている。

そのような状況を踏まえた具体的な手段として、電子図書館の充実が挙げられる。そういった視点を持ったうえで、計画の改定を行っていく必要がある。

I 会員：電子図書館については、議会でもご質問をいただいている。時間がない方や障害をお持ちで図書館へ来られない方もいらっしゃるので、ICT を活用して読書活動を進めていくことも重要であると認識している。今後の計画改定にあたっては、その視点も持って行っていく。

副会長：他に質問がなければ、次の議題に移る。

議題5 今後のスケジュールについて

(事務局より、資料2-5を説明)

副会長：計画に沿って効率的に計画改定を進めていくこととする。

議題6 その他

(事務局より、本日の内容を9月21日の教育委員会に提出する予定であること・次回の推進会議・本日の議事録について説明)

副会長：以上をもって、第二回子ども読書活動推進会議を終了とする。

(終了)

<p>会 議 の 結 果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊島区子ども読書活動推進会議部会の報告について了承する 2. 第四次計画の目指すもの「読書の質の向上」について会員の意見を踏まえ、調整する 3. 第四次計画事業について会員の意見を取り入れ、進捗管理・報告を行う 4. 第四次計画素案について了承する 5. 今後のスケジュールについて了承する 6. 第三回会議の開催日程について了承する
<p>提出された資料等</p>	<p>【配付資料】</p> <p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-1 子ども読書活動推進会議部会の報告について（第1回・第2回） 2-2 第四次計画の目指すもの「読書の質の向上」豊島区が目指す子どもの姿について 2-3 第四次計画事業の体系について 2-4 豊島区子ども読書活動推進計画（第四次）の素案 2-5 子ども読書活動推進計画策定スケジュールについて <p>【参考資料】</p> <p>学習指導要領（解説）改定のポイント「育成すべき資質・能力の三つの柱」（文部科学省）</p> <p>豊島区子ども読書活動推進計画（第四次）の素案 概要</p>
<p>そ の 他</p>	<p>なし</p>